

くすりと健康のはなし

第23回

薬包紙



一般社団法人岐阜県薬剤師会
理事 永野寛昌

飲み薬はまず飲まなければ効きません。当然ですね。しかしその飲み方が正しくないと薬を飲んで十分に効果が出ない場合があります。

『薬はコップ1杯の水かぬるま湯でお飲みください』

「そんなのいちいち飲めない」「私水無しでも薬を飲める」と言われる方もみえるかもしれませんが、確かに最近の水無しでも唾液で溶ける口腔内崩壊錠（OD錠）も増えてきました。多くの薬は水分により溶けて吸収され、血液の中に入ってから効果を発揮します。したがって薬が溶けるための十分な水分が必要となります。薬が溶けなければそのまま排泄されてしまい薬は効きません。また十分な量の水で飲まないで薬が食道などにくっついてしまい炎症や潰瘍が出現してしまう場合もあります。

薬が効果を発揮するには適切な血中濃度である必要があります。血中濃度が低いと効果は期待できませんし、高すぎると副作用が出たり危険な状態になる場合もあり

薬の適切な利用

ます。また一日を通してても平均的に適切な血中濃度であることが求められます。そのため医療機関で処方される薬は医師が患者さん毎に病態や年齢、体質、薬の特性等を考慮して決められますので用法・用量（1日2回や3回、1回1錠や2錠、食前や食後等）はお守りください。また医療機関で処方された薬は当然その人専用の薬ですので自分の薬を人にあげたり、人からもらって飲んだりする事はしないで下さい。場合によっては危険な事もあります。

薬は熱や湿気を帯びたり光に当たると効果が落ちてしまうこともあります。薬はなるべく涼しくて湿度が少なく光の当たらない場所に保管して下さい。しかし湿布剤は乾燥すると効果が落ちてしまうので乾燥しないように保管して下さい。

薬は大学等の研究施設や製薬会社の弛まぬ努力により日々進歩しています。そのため現在は特殊な薬も増えてまいりました。薬のことで分からないことがあれば薬剤師にご相談下さい。